

令和6年(2024年度)
事業計画

学校法人和風会
多摩リハビリテーション学院専門学校

目 次

①学校法人和風会

概 要

沿 革

名称・所在地

役員・評議員

学校関係者評価委員

和敬清寂委員

②多摩リハビリテーション学院専門学校

教職員

各種委員会

各学科

(1)作業療法学科

(2)理学療法学科

(3)言語聴覚学科

(4)介護福祉学科

学校法人和風会の概要

現在、我が国の保健・医療・福祉・教育を取り巻く状況は急速に変化しており、各方面ではさまざまな構造改革が進んでいます。このような状況の中で私たちが取り組む必要のある課題は山積しており、設立母体である医療法人社団和風会では、東京都西多摩地区、埼玉県西部地区を中心に地域医療を展開し、急性期から慢性期の医療だけでなく自立支援できるよう早期からリハビリテーション事業に着手して参りました。さらに予防医学を基本としたリハビリテーションにも着目し生活習慣病の運動療法を取り入れた施設を開設、展開し、リハビリテーションを核に先駆的役割を果たしております。

その様な状況下、医療法人社団和風会の中で人材養成を担当する前身の多摩リハビリテーション学院では、リハビリテーション専門職の人材育成が急務であることを感じ、平成 8 年 4 月に作業療法士養成施設（昼間部 4 年制）開設を皮切りに、翌平成 9 年には理学療法学科（昼間部 4 年制）、平成 10 年には言語療法学科（夜間部 4 年制）、平成 15 年に言語聴覚学科（大卒者 2 年課程）を年々学科増設しました。その後リハビリテーション養成分野に大学などの参入もあり差別化を図るべく、平成 20 年 4 月に作業療法学科を 4 年課程から 3 年課程に、平成 21 年 4 月に理学療法学科を 4 年課程から 3 年課程に、平成 23 年には言語療法学科(夜間)を廃止し、平成 24 年 4 月に言語聴覚学科(昼間大卒 2 年課程)を定員 40 名にし、最短期間でリハビリテーションの国家資格が取得できる養成施設として通算 26 年間にわたり地域の医療、福祉を担う卒業生を 2,300 人以上にわたり輩出して参りました。

今後はますます進行する高齢化社会の一方で、18 歳人口の減少等による学校の運営を取り巻く環境は年々厳しさを増す中、地域及び社会情勢の変化に的確に応じ、質の高い学生の養成や経営の基盤強化をはかるべく、平成 31 年 4 月に学校法人和風会を設立し、多摩リハビリテーション学院専門学校として東京都及び青梅市より認可を頂きました。

多摩リハビリテーション学院専門学校では、今後益々進む高齢化の中で、引き続き次世代の質の高いリハビリテーション医療技術者の養成と並行し、病院、施設等では福祉の人材不足が懸念されており、新たに外国人も含めた福祉の分野で活躍する技術者の養成に着手すべく、令和 4 年(2021 年度)に介護福祉学科を増設しました。今年度は介護福祉学科も 3 期生を迎え、更なる教育の充実と拡充をはかるものとなります。

学校法人和風会 多摩リハビリテーション学院専門学校(平成31年4月認可)

*前身 医療法人社団和風会 多摩リハビリテーション学院(平成8年開設)

沿革

■平成8年4月

- ・多摩リハビリテーション学院(青梅市根ヶ布)開校
- ・作業療法学科(昼間4年過程)開設(併設施設デイケアセンターパーク 開設)

■平成9年4月

- ・理学療法学科(昼間4年過程)開設
- ・健康福祉学科(夜間2年過程)開設

■平成10年4月

- ・言語療法学科(夜間4年過程)開設

■平成11年3月

- ・健康福祉学科(夜間2年過程)1期生卒業

■平成11年4月

- ・健康福祉学科 昼間に移行

■平成12年3月

- ・作業療法学科(昼間4年過程)1期生卒業

■平成13年3月

- ・理学療法学科(昼間4年過程)1期生卒業

■平成14年3月

- ・言語療法学科(夜間4年過程)1期生卒業

■平成14年4月

- ・健康福祉学科改組の為、募集停止

■平成15年4月(併設施設デイサービスセンター パークに変更)

■平成16年4月

- ・言語聴覚学科(昼間※大卒者対象)開設
- ・音楽療法研究科(昼間2年過程)開設
- ・ホームヘルパー2級、1級 事業開始

■平成18年3月

- ・言語聴覚学科(昼間※大卒者対象)1期生卒業
- ・音楽療法研究科(昼間2年過程)1期生卒業

■平成18年4月

- ・理学療法学科(夜間2年過程※作業療法士/見込含 対象)開設

■平成19年4月

- ・言語聴覚学科(昼間※大卒者対象)定員20名→30名に定員増

■平成 20 年 3 月

- ・理学療法学科(夜間 2 年過程※作業療法士／見込含 対象)廃止

■平成 20 年 4 月

- ・作業療法学科昼間部 4 年課程→3 年課程
- ・言語療法学科 (夜間 4 年課程) 学生募集停止

■平成 21 年 4 月

- ・理学療法学科昼間部 4 年課程→3 年課程

■平成 22 年 3 月

- ・音楽療法研究科 (昼間 2 年過程) 廃止

■平成 23 年 3 月

- ・言語療法学科 (夜間 4 年過程) 廃止
- ・言語聴覚学科 (昼間※大卒者対象) 定員 30 名→35 名に定員増

■平成 24 年 4 月

- ・言語聴覚学科 (昼間※大卒者対象) 定員 35 名→40 名に定員増

■平成 25 年 8 月

- ・ホームヘルパー2 級 (法制度改定により) →

東京都介護職員初任者研修事業者の指定

■平成 29 年 5 月

- ・介護職員実務者研修講座(通信)の指定

■平成 31 年 4 月

- ・学校法人和風会 設立認可(東京都)
- ・専修学校 多摩リハビリテーション学院専門学校認可(青梅市)

■令和 1 年 5 月

- ・介護職員実務者研修講座(通信)の指定(東京都)

■令和 1 年 8 月

- ・生活援助従事者研修課程(通学)の指定(東京都)

■令和 1 年 9 月

- ・介護職員初任者研修課程(通学)の指定(東京都)
- ・高等教育の修学支援(高等教育無償化)制度対象校認定(文部科学省)

■令和4年 4 月

- ・介護福祉学科 (昼間 2 年過程) 開設

■令和5年 4 月

- ・作業療法学科、理学療法学科、言語聴覚学科 職業実践専門課程認可
- ・言語聴覚学科 都委託訓練生 1 期生入校

名称・所在地

法人名	学校法人和風会
学校名	多摩リハビリテーション学院専門学校
法人・学校住所	東京都青梅市根ヶ布1-642-1

役員及び評議員

理事長	理事長	石田 信彦	評議委員 (定数19名)	評議員	清水 誠
理事・監事	理事	数野 國明		評議員	岩戸 徹
	理事	石田 哲郎		評議員	佐藤 讓司
	理事	林 義巳		評議員	木村 欣司
	理事	黒田 英寿		評議員	半沢 寛
	理事	小澤 達也		評議員	高木 博之
	理事	田中 勇次郎		評議員	加藤 哲禎
	監事	原山 陽一		評議員	木村 洋治
	監事	田中 康雄		評議員	大山 京子
					評議員
				評議員	鈴木 康雄
				評議員	奥山 浩太
				評議員	池田 健祐
				評議員	竹田 陽介
				評議員	西片 裕
				評議員	横濱 秀征
				評議員	成塚 修一
				評議員	鈴木 健二郎
				評議員	黒田 英寿

学校関係者評価委員会

委員長	鈴木 康雄				
委員	奥山 浩太	池田 健祐	竹田 陽介	高木 博之	加藤 哲禎
	人見 太一				

和敬清寂委員会(教職員接遇向上及び各種ハラスメント対策)

委員長	林 義巳				
委員	岩戸 徹	清水 誠	佐藤 讓司	木村 欣司	黒田 英寿
	師岡 静枝				

②多摩リハビリテーション学院専門学校

教職員

学院長・副学院長・事務長

学院長	林 義巳
副学院長兼教務部長	岩戸 徹
事務長	黒田英寿

作業療法学科

学科長	清水 誠	作業療法士
主任	中村 晃一	作業療法士
副主任	横濱 秀征	作業療法士
副主任	鎌田 小百合	作業療法士
教員	庄司 麻美	作業療法士
教員	岩田 一鷹	作業療法士

理学療法学科

学科長	佐藤 譲司	理学療法士
主任	成塚 修一	理学療法士
副主任	西井 琢馬	理学療法士
教員	岩井 琢也	理学療法士
教員	鈴木 恒	理学療法士
教員	小嶋 陽香	理学療法士

言語聴覚学科

学科長	木村 欣司	言語聴覚士
主任	西片 裕	言語聴覚士
教員	鈴木 真生	言語聴覚士
教員	山崎 暁	言語聴覚士

介護福祉学科

学科長	鈴木 健二郎	介護福祉士
主任	竹内 克	社会福祉士 介護福祉士
教員	中田 史宏	看護師

カウンセラー・心理学担当

	藤枝 幹大	臨床心理士
--	-------	-------

各種委員会委員

◎広報委員会

委員長	景山 雄介				
委員	師岡 静枝	中村 晃一	岩田 一鷹	岩戸 徹	成塚 修一
	西片 裕	山崎 暁	鈴木 健二郎	上田 大地	三浦 健
	岩田 宏美				

◎学生生活向上委員会

委員長	佐藤 讓司				
委員	清水 誠	藤枝 幹大	山崎 暁	鈴木 健二郎	景山 雄介
	三浦 健	上田 大地	黒田 英寿		

◎就職委員会

委員長	鈴木 真生				
委員	鎌田 小百合	岩井 琢也	西井 琢馬	竹内 克	石黒 真也
	黒田 英寿				

◎校友会委員会

委員長	西片 裕				
委員	横濱 秀征	小嶋 陽香	鈴木 健二郎	監査	黒田 英寿
	榊田 史江	岩田 宏美			

◎学校評価委員会

委員長	林 義巳				
委員	黒田 英寿	岩戸 徹	清水 誠	佐藤 讓司	木村 欣司
	鈴木 健二郎				

◎教育課程編成委員会

委員長	岩戸 徹				
委員	林 義巳	黒田 英寿			
	清水 誠	佐藤 讓司	木村 欣司	鈴木 健二郎	中村 晃一
	成塚 修一	西片 裕	竹内 克	横濱 秀征	藤枝 幹大
	景山 雄介	師岡 静枝			
外部委員	鈴木 康雄	池田 健祐	赤松 栄晃		
	大堀 隆二	人見 太一			

◎情報システム委員会

委員長	師岡 静枝				
委員	岩田 一鷹	西井 琢馬	山崎 暁	中田 史宏	岩田 宏美
	上田 大地				

◎医療法人社団和風会 学術委員会

委員長	鈴木 真生	
委員	庄司 麻美	鈴木 恒

在校生

学科	学年	定員	昼/夜	教室	担任
作業療法学科	1学年	40	昼	南302	中村・岩田
	2学年	40	昼	北302	清水・庄司
	3学年	40	昼	学院ホール201	鎌田・横濱
理学療法学科	1学年	40	昼	南301	西井・佐藤
	2学年	40	昼	北301	鈴木恒・成塚
	3学年	40	昼	学院ホール202	小嶋・岩井
言語聴覚学科	1学年	40	昼	北401	全学科教員
	2学年	40	昼	北402	全学科教員
介護福祉学科	1学年	40	昼	南303	専任教員
	2学年	40	昼	南304	専任教員

学 科	作業療法学科
入学定員充足	<p>体験会では作業療法の魅力を簡単に楽しんで経験してもらうことに配慮し、個別見学では入学後の学院生活をイメージできる様に説明し学生獲得に努めています。毎月の体験会以外にも、地域の高校への特別授業を積極的に引き受け、介護予防講座、タマリハセミナー参加者を介し作業療法の認知度必要性を訴え定員充足に努めて参ります。</p>
教育(カリキュラム・学生サポート等)	<p>各学年身体・精神分野の教員をそれぞれ1名置く二人担任制で、学生の状況把握に注力しています。1年次には自主的な学習態度、専門職の理解、コミュニケーションスキルの育成を目標に、学習方法、対人関係の築き方等を丁寧に説明しています。特に1年次では学校生活に馴染めないと成績低下、途中退学に繋がり易く、担任以外の教員も関わりを持つ様に配慮しています。青梅市の新緑祭参加や卒業生の特別講話等も取入れモチベーション維持にも努めています。2年次では積極的に周囲と係わり、他者を理解する力の育成を目標に、グループワークの時間を多数設けて他者との関わりを実践する場面を提供しています。2年次は病院等での臨床実習が開始されるので、その準備として事前学習(実技練習を含む)確認試験、実習前・後のOSCEを実施しています。3年次ではチーム医療の一員として、対象者に寄り添える力の育成を目標に長期の総合臨床実習を組み、教員は担当施設を持ち学生のサポートに当たっております。</p>
国家試験対策	<p>国家試験対策は、1年次から国試より基礎3科目を抜粋し小テストなどを実施し基礎科目の出題傾向と重要性を学んでもらいます。2年次では基礎科目だけでなく、専門問題を含めグループで取り組み協力しながら解くことを実施しています。3年次では開始早々に模擬試験で実力把握を開始し、学力の低い学生にはより早期から国試勉強、小グループでの学習を推奨しています。実習終了後は再度実力把握、業者試験を行うことで全国平均と自分の実力がどの程度かを把握してもらい、その後の学習方針とモチベーション維持に役立てていきます。成績不良者は各教員に担当制にして学習を促していきます。</p>
就職支援	<p>作業療法士の就職状況はまだ良好なこともあり、他学科と比べ毎年内定率が低いと言えます。ただ他学科と同様に4月就職ガイダンスで履歴書の書き方、面接の受け方の指導を行っています。就職説明会は実習地を中心とした施設、学院近くの施設等に来てもらい情報収集、条件比較など複数施設の説明を伺うことで学生のより希望に沿った就職をサポートしていきます。</p>
校友会(同窓会)との連携	<p>コロナ感染の猛威が終息してきたと言いながら、校友会の研修など対面での開催まだまだ厳しい状況であります。身体接触の必要な技術系の研修会を避けて、少人数で新卒対象に絞った対話型支援を計画し、卒業後も学生間、学校の繋がりを大事にしています。</p>
その他	<p>新1年生の入学時父兄を対象とした説明会を開催し、入学後の流れ、国試の状況(合格率)、就職状況、実習等を説明しております。ご意見、ご質問に対しては電話、メールでの対応を基本とし、学院での状況なども保護者に伝え確認、協力を仰いでいます。学生面談は前期・後期開始後全学年で実施し、定期試験、再試験後の面談、実習開始前の面談と頻回実施し学生の状況把握に注力し保護者との連携を獲得していきます。</p>

学 科	理学療法学科
入学定員充足	令和6年度に向けて入学定員は現時点で未達です。社会人への電話連絡など行っております。来年度は今年度以上に資料請求者の増加、体験会参加者や個別相談の増加、入学試験者の増加できるよう学科として取り組んでまいります。
教育(カリキュラム・学生サポート等)	カリキュラムは3年課程です。1年次は専門基礎、2年次は専門科目、3年次には臨床実習と理学療法士になるための総復習を実施予定です。例年通り各学年担任制で各学年2名ずつ配置しております。来年度から担任は持ち上がりではなく固定化し、毎年同じ学年を受け持つ予定です。教員の業務負担軽減による学生への教育体制の充実を図る目的があります。実技科目は医療法人和風会のセラピストによる講義およびファシリテーターとして授業に参加して頂き、学習理解や緊張感維持のためにご協力頂いております。サポート体制としては学習面を中心に随時個別面談を実施予定です。来年度も実習終了後には3学年合同での懇談会も実施し、先輩・後輩の交流も行う予定です。
国家試験対策	1年次より国家試験に関わる講義や小テスト、3年次を中心に国家試験対策を予定しております。基礎的な科目となる専門基礎分野演習、理学療法の専門科目となる専門分野演習、そして実地問題の対策としての総合分野演習を行い、国家試験合格率が全国平均を上回る結果となるようサポートしてまいります。国家試験当日直前までの個別対応が功を奏したと思われまます。 令和5年度自己採点結果（口頭にて）
就職支援	3月末に就職ガイダンス、4月に就職活動講座、7月にハイブリッド形式にて就職説明会を予定しております。今年度の就職説明会でのアンケート結果より対面を希望する施設が多数を占めておりましたので、基本的に対面で実施し遠隔地などはオンラインで参加できるよう準備致します。来年度も年内就職内定率90%以上を目標にしております。
校友会(同窓会)との連携	年2~3回外部講師に講演等を行う予定です。外部講師は全国でも有名な先生にお越し頂き、在校生も参加し講演頂く予定です。
その他	入学直後の保護者説明会、在校生の保護者説明会を予定しております。定期試験以外にも例年通り成績表の郵送や学業不良者への保護者連絡など引き続き予定しております。学科教員には授業及び学生に対する指導力等の向上に向けた研修会、学会参加、大学院への進学なども行っております。

学 科	言語聴覚学科
入学定員充足	<p>学科共通の広報手段（体験会・個別相談等）に加え、大学連携強化、病院サポーター病院との連携強化を行います。また、本科の認知度向上を目的に、授業風景や学校生活などを本科専用オフィシャルSNS（Twitter・YouTube）にて、情報を発信します。また並行して、言語聴覚士の認知度向上を目的として、同様にオフィシャルSNSの利用や、学科教員により介護予防講座、地域発達障害児向けのことばの相談業務を行います。</p>
教育(カリキュラム・学生サポート等)	<p>継続内容になるが、職業動機が希薄な学生が多いため、病院・施設に所属する言語聴覚士と連携し、講義でも言語聴覚療法の臨床に近い学習内容を提供し、学生の知識と技術がより深まるよう指導します。</p> <p>また、学習面や近年増加傾向である精神面や合理的配慮が必要な学生に対しても個別に対応していきます。すべての学生が安心して学業に励むことができるよう支援します。</p>
国家試験対策	<p>個別重視型の対策実績を活かし、1年次から学生の学力や個性に合わせた完全個別指導を行っています。また、各授業内容は国家試験の問題を意識した展開を行い、早い段階から国家試験問題に触れさせていきます。期待する効果として国家試験対策はもちろんですが、日頃の学習の理解度を確保する材料としても利用し、成績不良者を早期発見・早期対応することで合格率を担保する体制を整えて参ります。</p>
就職支援	<p>就職委員会を中心として正規の支援に加え、学生の就職先に求めるニーズに応えられるよう、支援してまいります。近年の学生は、求めるニーズとして「職場の雰囲気」と挙げるものが多くなってきました。そのため、雰囲気を感じる機会が増加する、日頃から連携を取る実習地やその他、STサポーター病院の存在は大きくなってきてます。そのため、就職先の環境も把握し、情報が提供できるよう努めて参ります。</p>
校友会(同窓会)との連携	<p>校友会と連携し臨床現場で即実践できる内容の研修会を実施していきます。また顔を合わせて、実習地確保や志願者発掘などの協力要請も併せて行います。また、令和4年度卒業生もそうだが、入職後1年も満たない早期退職が増加傾向です。そのため、任意の参加となりますが、新卒者に対する相談会を引き続き実施いたします。</p>
その他	<p>精神的問題の学生が毎年一定数以上おります。学科教員、本科の公認心理士や本学の臨床心理士と連携して、対応に当たって参ります。また、経済的に不安がある学生に対しても本科独自のサポーター制度にて継続的に支援いたします。</p> <p>令和5年度から開始した東京都専門人材育成訓練の訓練校も2年目となります。職業動機が希薄な学生が益々増加傾向となりますが、学科教員一同、令和6年度も精一杯対応してまいります。</p> <p>最後に、2025年4月より指定規則の変更となります。そのため、カリキュラム変更、新設備品の購入予定、学科教員の増員を徐々に進めてまいります。</p>

学 科	介護福祉学科
入学定員充足	介護福祉学科では、他学科と共に体験会、個別見学、高校訪問を実施します。修学資金に不安を抱える学生を支援していただく介護福祉士サポーター法人制度および東京都修学資金貸付制度を周知します。ミャンマー国からの留学生の保証人となる法人を増やすことと近隣日本語学校との連携も継続していきます。令和7年度から受託可能となる長期高度人材育成訓練（東京都委託訓練）、職業実践専門課程、専門実践教育訓練給付の申請を行い社会人の入学者を増やします。SNSでの発信を継続します。入学者紹介制度の案内を致します。
教育(カリキュラム・学生サポート等)	介護福祉学科では、1年次に介護に必要な基礎的知識と技術を習得し、施設実習を通じて知識と技術の統合を行います。2年次には医学的であり専門的な介護の知識を学び、根拠を基にした理解を深めます。他学科の教員が授業を担当する科目もあり連携教育も実施致します。学生サポートとして入学時から学生一人ひとりの悩みに対して支援できるように個別面談を重視します。留学生に対しては日本語教師による日本語教育を実施し学年を超えた交流や地域と交流できるような取り組みを行います。
国家試験対策	国家試験対策として、1年次には学習の基礎となる「基礎学習講座」を学び、2年次には国家試験対策として特化した科目「総合介護福祉論」を学びます。2年次に模擬試験を2回実施します。合格基準未達者へ国家試験直前までZOOMなどを利用して苦手部分を克服できるよう個別に対応していきます。
就職支援	特別講座としてマナー講座を行い、基礎的なビジネスマナーを習得し就職面接などに役立てます。2年次には履歴書の書き方などを指導します。介護福祉士サポーター制度を利用する学生に関しては入学時からサポーター先施設でアルバイトをすることで、就職先と早い段階でつながることが出来、卒業後も安心して就職することができますのでサポーター先施設と連携協力をします。また実習を通じて多様な介護福祉サービスを知り職業理解ができるように実習配置を行います。
校友会(同窓会)との連携	令和5年度に介護福祉学科として初めて卒業生がでます。卒業生との連携を深めて実習先の確保や就職先の確保をします。入学者の紹介依頼や最新の介護福祉業界の動向などを情報交換することで在校生への授業にも活かしていきます。
その他	年度内に介護職員初任者研修1回、介護福祉士実務者研修1回を予定しております。介護福祉学科と合わせて地学地就ができる養成校であることを周知し地域に根差した教育をしていきます。